スローガン
信教の自由を守ろう
宗教協力を進めよう
世界の平和に貢献しよう

新宗教新聞

2016年（平成28年）
7月27日
第1080号

発行所
新宗教新聞
〒151－0053
東京都渋谷区代々木5丁目57番10号
電話（03）3468－5588〈代表〉
大阪支社　〒550－0006大阪市西区江之子島1丁目8番21号111
電話（06）6443－7178

熊本地震

復興支援ボランティア VOWS

活動計画を完遂し終了

熊本地震被災地の復興支援として、新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、岩渕明大委員長）と世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会（庭野日鑛会長、杉谷義純理事長）が協働し、熊本県南阿蘇郡西原村で展開していたボランティア活動が7月15日、当初の計画を完遂し終了した。

参加宗教者は延べ240人に

新宗連青年会・WCRP日本委が募集、派遣

同ボランティアは「熊本地震復興支援ボランティアVOWS（Volunteers of WCRP&SYL）for KUMAMOTO」の名称で、新宗連青年会とWCRP日本委が4月24日から7次にわたりボランティア派遣を行った。

1カ月半にわたる西原村でのボランティアには一燈園、円応教、松緑神道大和山、崇教真光、善隣教、中山身語正宗、パーフェクト リバティー教団（PL）、妙智會教団、立正佼成会などの青年を中心に延べ240人が参加。被災した家屋の清掃や片付け、水路の泥出し、仮設住宅への引っ越し、またボランティアセンタースタッフの活動などに従事した。

7月15日までの活動を終えて、VOWSとして報告書を作成。震災の概要やVOWS発足の経緯、派遣概要、主な参加者の感想などをまとめた。

感想ではボランティアを受け入れた西原村への感謝、活動を通してのそれぞれの気付き、復興を願う思いがつづられている。

新宗連青年会の岩渕明大委員長は「活動を通して、ボランティアとしての姿勢と精神、組織体制をあらためて学び、体験する機会となりました」「東日本大震災があった東北から参加したことが、熊本の復興を全国で応援しているメッセージになればと思います」と記した。

また、WCRP日本委平和推進部長の篠原祥哲氏は「本当に厳しい被災状況の中で、懸命に復興に向けて取り組んでいる西原村の皆さんの姿に、自分も何かお役に立てればと心がうずきました。被災者からの電話で、逆に励まされてしまうことが多々ありました」と振り返っている。

篠原部長（左）と大滝事務局長（右）が、内田副村長（中）に報告書を手渡す（7月15日、西原村役場）

7月15日午後、WCRP日本委の篠原氏と新宗連青年会の大滝晃史事務局長が西原村役場を訪れ、VOWS報告書を内田安弘副村長に手渡し、ボランティア活動を通しての所感を伝え懇談した。

「熊本宗支連」発足 7月26日に初会合

一連のボランティア活動を通して、VOWSスタッフは熊本県下でひたむきな支援活動を展開している宗教者・宗教団体とも関わりをもった。

そのネットワークを今後の復興に生かすことが求められ、宗教者災害支援連絡会（宗援連、島薗進代表）と真如苑SeRV（長塚充男本部長）、新日本宗教団体連合会（新宗連、保積秀胤理事長）、WCRP日本委が呼びかけ「熊本復興宗教者支援連絡会（熊本宗支連）」を立ち上げ、7月26日に熊本市国際交流会館で会合を開催する。

会合では、熊本地震から3カ月を経て、これまでの緊急支援を振り返りつつ、今後の復興の現状を学び、今後の宗教者・宗教団体による復興における役割などを話し合う。

支援活動に関わった熊本県下の神道、キリスト教、仏教の宗教者らによる取り組み状況、NGOスタッフからの現状報告を行うほか、熊本県健康福祉政策課の木村忠治室長が被災地の現状と課題について報告を行う。

ユースフォーラム2016 in 静岡

地球温暖化やエネルギー問題など学び自ら行動を

新宗連青年会

新宗連青年会は7月2、3日、新日本宗教青年会中部連盟（青中連）の受け入れにより、静岡県掛川市の「ヤマハリゾートつま恋」で「ユースフォーラム2016」（『栞』参照）を開催した。

今回のテーマは「Act with prayer to one～地球のために今私たちが出来ること」で、環境問題の専門家の講演とワークショップ、浜岡原子力発電所（御前崎市）の施設見学を通して、環境とエネルギー問題について学んだ。

2日午後1時からの開会式で、青中連の高木寿実行委員長が歓迎のあいさつ。東日本大震災以降、浮き彫りになった、環境・エネルギー（原発）問題について「私も答えはないが、まずは現状を知ること、そしてそれぞれ自分に何ができるかを考えてほしい」と今回のユースフォーラムのねらいを説明した。

続いて主催者の新宗連青年会の岩渕明大委員長があいさつ。「出会い・啓発・学習」の場であるユースフォーラムの意義を語り、「お互いを認め合い、高め合い、地球全体のことを共に考えていきたい」と述べた。

来賓を代表して新宗連中部総支部会長の田中庸仁真生会会長があいさつ。今回の会場である「つま恋」の地が30年前、フォーク音楽で若者が新しい風を起こした場所であることに触れた後、「長い目で、抜本的に、多面的に考えることが重要です」と青年らにアドバイスした。

この後、自治体の環境政策支援や環境活動人材育成などに携わるNPO法人「環境市民」の風岡宗人氏が講演。地球温暖化、それに伴う海面上昇、砂漠化、巨大台風、種の絶滅による生態系の変化などについて、科学的な知見に基づいたデータや映像資料を多数紹介しながら解説した。

昨年末の「第21回国連気候変動枠組み条約締約国会議」（COP21）で採択された「パリ協定」について、「途上国を含めたすべての国が努力するということで合意したことは評価できる」と述べたが、日本の目標がヨーロッパなどの先進的な国々と比較して低いこと、その背景として、日本人の環境問題への意識がそれほど高くないことを指摘し、懸念を示した。

風岡氏がデータや映像資料をもとに講演

原発については、安い、安全、クリーン（温暖化の原因となる二酸化炭素が出ないと言われる）などの理由が挙げられ、懸念を示した。

浜岡原発と広報施設で研修

3日は午前9時に、中部電力の浜岡原子力発電所と広報施設の浜岡原子力館を訪れ研修。担当者から浜岡原発の概要と原子力発電の仕組みや、福島第一原発事故の教訓から地震や津波などのさまざまな事態に対処するための設備対策や取り組みの説明を受けた後、2組に分かれて施設内を見学した。

参加者は敷地内への津波の浸水を防ぐ海抜22㍍の防波壁や、重大事故に至らないための複数の代替手段を視察した。

午後1時過ぎから教団別礼拝を行い、閉会式。新宗連青年会旗が来年度ユースフォーラム受け入れの新日本宗教青年会北関東連盟（青北関連、小林秀光委員長）に手渡された。

総評で新宗連青年会の岩渕委員長は「講演や、なかなか見学することのできない原発を実際に見て感じたことを、これからの選択の基盤としてほしい」と述べた。

また青中連のスローガン「笑顔の輪」に触れ、「今回のユースフォーラム受け入れを機に、青中連の活動が一層活発になり、皆さんの笑顔がさらに広がっていくよう願っています」と述べた。

広報施設の浜岡原子力館を見学する参加者

連載企画「そうだ　選挙に行こう」は2面に掲載しました。

【訂　正】

前号（6月30日付）1面「第3回評議員会・第29期第1回理事会・新体制役員決まる」の記事中、日本宗教連盟役員の推薦者で「清島啓治郎理事」は「石倉寿一常務理事」の誤りにつき、訂正し、お詫びいたします。

栞（しおり）

ユースフォーラム

新宗連青年会が主催する「ユースフォーラム」は、「8.14式典」と並ぶ新宗連青年会の二大行事。新宗連加盟教団の青年が一堂に集う「出会い・啓発・学習」の場で、青年会活動への理解を深め、共通の課題を通して世界平和と人類福祉の向上のために最善と思われる行動、方法論を探求することを目標としている。1979（昭和54）年から始まり、今回で38回を数える。新宗連青年会を構成する全国の地方連盟が毎年持ち回りで開催している。（1面）

第51回 8・14式典 迫る

絶対非戦と平和実現への誓いを

新宗連青年会は8月14日夕、東京・九段の国立・千鳥ケ淵戦没者墓苑で第51回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典（8・14式典）」を開催する。同式典は第19回（1984年）までは新宗連青年会が主催、翌年の第20回からは新宗連との共催で毎年行ってきた。その後、新宗連の公益財団法人移行に際して、新宗連が主催となったが、昨年の第50回を一つの節目として、今回から32年ぶりに新宗連青年会が主催することとなった。

「8・14式典」は教義や信条の違いを乗り越え、宗教協力の理念のもと、戦争の犠牲となったすべての人々に慰霊と供養の誠を捧げるとともに、「絶対非戦」と「平和実現」への誓いを新たにするもの。

式典は午後6時に開式。主催者あいさつと新宗連代表者あいさつ、献灯と折鶴奉納、新宗連代表者による教団別礼拝、各教団少年少女による合唱。「平和へのメッセージ」発表の後、午後7時30分に平和への祈りを捧げ、戦争犠牲者に慰霊と供養の誠を捧げ、世界平和の招来を祈願する。

今回も新宗連青年会の各地方連盟旗を墓苑内に掲げ、式典には参列できない全国の青年とも心をひとつにする。

現在、新宗連加盟教団の会員・信徒のみならず、チラシ配布やホームページなどを通して、多くの人々に参加を呼びかけている。

チラシを作成し、各方面へ参加を呼びかけている

滔々抄

変化に応じる力を

「今」刻む謡の拍子に思う

「これは自分の知っている『音楽』とは全く違う」。能楽師の安田登さんは能の謡（うたい）であったときに、こう思ったそうです。西洋音楽はリズムとメロディで成り立ち、能は拍子と節でできています。ところが、これが似ているようで全く別物だったというのです。

指揮者の一振りめで、それに続く一拍目、二拍目を予測するのが西洋音楽のリズム。指揮棒を振った時点で、まだ存在しない未来の時間を確定します。それに対して拍子は、その時その場所にいる人の呼吸で決まるといいます。つまり変化の中で「今」を刻み続けるのです。

たとえば手毬（まり）歌は、鞠（まり）の弾みに合わせて歌い、鞠をつきます。未来の鞠の弾み方は予測できないので、「今」の弾みに合わせる。それが「今」を刻むということ。「今」の連続が拍子になります。リズムが絶対的なら、拍子は相対的。変化に応じ続けるのが拍子と言えるでしょう。

西洋音楽のリズムに慣れた子どもたちは、一定のリズムで鞠をつこうとします。ですから、弾み方が変わると、途端にうまく鞠がつけなくなってしまいます。子どもたちだけではなく、私たち大人も、あらかじめ立てた計画通りに進めることは得意でも、「今」に応じて変化することができ難くなっているようです。

仏教では縁起を説きますが、縁起というのは関係のこと。それも固定した関係ではなく、ダイナミックに変化させうる動的関係です。変化し続ける世界の中で、今こそ拍子を刻む力が求められているのではないでしょうか。（庭野光祥・立正佼成会次代会長）

宗教をめぐるさまざまな問題のご相談窓口
宗教もしもし相談室
03 3466-9900
受付●月曜→金曜／正午→午後4時
公益財団法人 新日本宗教団体連合会

解脱会伝記編纂委員会編
新版 解脱金剛伝 全3巻
A5判 上製函装 定価3000円（税込み）
世相善導、人心救済への道筋を説かれた解脱会会祖・解脱金剛（岡野聖憲）の生涯を全1549頁、3巻に収めた。会祖亡き後、その人格に触れて自らの内に深い帰依心を培い、世のため人のために生きるための学びの土台となる書。第1巻＝生誕から事業の失敗、大成を経て宗教の世界に目覚めていく前半生を描く。第2巻＝昭和4年に立教して以来、人心救済の道一筋に生き、教えの土台を完成するまでの事績を辿る。第3巻＝戦時下の厳しい時代の中で縦横無尽に教えを説き、救済活動を展開し、遷化されるまでの歩みを記す。
解脱会
〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地
Tel 03-3353-2191(代表) Fax 03-3353-3055

清文社
宗教法人の税務調査対応ハンドブック〔宗教法人税制と法制の解説を含めて〕
石村耕治 編
A5判3780円
平成25年からの新・税務調査手続にも対応！
宗教法人と税務調査についての基礎知識を中心に整理し、コンパクトに解説した、実務家・宗教関係者必携の一冊。
公益財団法人 日本宗教連盟推薦！
〒101-0047 千代田区内神田1-6-6
☎03(6273)7946 FAX03(3518)0299
http://www.skattsei.co.jp〈価格税込〉

芸術生活社【芸生文庫】
高齢期を快く生きるための“人生の道しるべ”
老春誦歌（ろうしゅんおうか） 長生きの秘訣
御木徳近著 パーフェクト リバティー教団第二代教祖が、宗教家としての悟りと長い人生経験、多くの人との出会いから、高齢期を心豊かに暮らすための新しい生き方を提唱する。■定価700円（税込）
〒150-0047東京都渋谷区神山町16-1
電話03-3469-1153 FAX03-3465-6867

奉祝!! 第62回 神宮式年遷宮
神宮祭祀の研究 中西正幸（国学院大学教授）
伊勢の神宮では、四季の彩りゆたかな恒例・臨時の諸祭典がとり行われている。そうした祭祀の淵源をたどると、とおく神祇令に神嘗祭と神御衣祭とを初見し、神宮最古の文献というべき延暦二十三年（八〇四）の両宮儀式帳に、年中恒例祭や式年遷宮祭を掲げる。祈年祭・三節祭・踐祚大嘗祭などの主たる祭祀が古代において成立したことを前提として、本書では神宮の年中行事、恒例祭、諸祭・行事、式年・臨時祭、御料・職役・明治新祭式について多数の写真・図版で神宮祭祀に関する論考を集大成。一二六〇〇円
神宮式年遷宮の歴史と祭儀 中西正幸
神宮における遷宮関係の技術と知識の集積は、千三百年にわたる式年遷宮の歴史と伝統に相応しく、それこそ「千古の生きた伝統の結晶」の奥深さがあろう。殊に神宮文庫に所蔵される典籍・記録類は夥しく、しかも貴重なものである。本書では、神宮式年遷宮を総説・歴史・祭儀・造営・神宝の諸領域に分け、その現状と課題を概観、平成十年（大明堂刊）の復刊。五二五〇円
国書刊行会 TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
http://www.kokusho.co.jp(税込価)

パラダイム
所得税0（ゼロ）への道
著：太田哲二
定価：本体1400円＋税 A5判 176ページ 発行：パラダイム
したたかにマイペースで生きる猫の気持ちで、所得税を限りなくゼロに近づける秘策の数々を紹介
電子版『所得税0への道 2016年版』
最新の税制に合わせて改訂された最新版
A5判 184ページ Kindle,BookLive!などで好評発売中
東京都杉並区梅里2-40-19
☎03-5306-6921 FAX 03-5306-6923
http://www.paradigm.jp/

ひろさちやの『法華経』シリーズ 堂々の完結！
〈法華経〉の真実
最新刊 ひろさちや
◎四六判上製／本体1700円＋税
大乗仏教を象徴する経典『法華経』は、一体何を伝えようとしているのか。「釈迦仏」「信じる」「提婆達多」など12の視点から、その解明を試みる。成立から約二千年の時を経た今、『法華経』のメッセージを享受する〝鍵〟と邂逅できる一冊。
〈法華経〉の世界
◎四六判上製／本体2000円＋税
『法華経』日本語訳
◎四六判上製／本体1800円＋税
佼成出版社
〒166-8535 東京都杉並区和田2-7-1
☎03(5385)2323 FAX03(5385)2334
http://www.kosei-shuppan.co.jp/

白馬社
合掌ができない子どもたち
浄土真宗本願寺派福賢寺住職 三上章道
四六判 定価1260円
「本願寺新報」の編集長を二十年に亘って務めてきた著者が、「合掌ができない子どもたちとの出会いを契機に、戦後の日本社会が戦慄すべき「薄縁社会」と、その原因が宗教を追い、その原因が宗教を解心の喪失にあることを解き明かす。そして新たに現出した「原発問題」にも、同根の原因があることを洞察していく。日本人の心の問題にするどく迫り、根本的解決への提言をまとめた必読書。
〒612-8469 京都市伏見区中島河原田町28-106
TEL 075(611)7855 FAX 075(603)6752
http://www.hakubasha.co.jp 価格税込

春秋社
災害支援ハンドブック
宗教者の実践とその協働 2160円
［編］宗教者災害支援連絡会
［責任編集］蓑輪顕量・稲場圭信・黒崎浩行・葛西賢太
頻発する地震や自然災害――。今後の災害に備えて、東日本大震災の支援活動に携わった宗教者と研究者が直面した問題点とその解決方法、課題に提言などを、宗教・宗派の壁を超えてまとめた決定版。
東京都千代田区外神田2-18-6
☎(03)3255-9611〈価格税込〉
http://www.shunjusha.co.jp/

『終活』はつながりの再構築

宗教者は積極的アプローチを

第79回拡大宗法研 専門誌編集長が講演

新日本宗教団体連合会（新宗連、保積秀胤理事長）宗教法人研究会（宗法研、平松千明座長）は7月6日午後3時から、「なぜ今、終活なのか?―現代における宗教の役割を考える」をテーマに、第79回拡大宗教法人研究会（拡大宗法研）を開催した。

講師に産経新聞「終活読本ソナエ」編集長の赤堀正卓氏を招き、近年の「終活」ブームについて、その背景と現状を学び、宗教者の課題を考える内容。

「終活」は人生の終わり（エンディング）のための活動で、言葉としては2009（平成21）年、「週刊朝日」が造ったものだが、12（同24）年以降、流行語の上位に入るなど、ブームとなっている。

赤堀氏は、年間死亡者数や一人暮らし高齢者の増加など日本の人口構造の変化、また、自分らしさの追求、子どもの世話になりたくないというような価値観の変化を指摘。加えて、縁やつながりが薄れていることが「終活」ブームの背景にあると解説した。

現在までの「終活」ブームは、企業の参入が目立つとして、保険会社、葬儀社、流通大手などのほか、インターネット大手や旅行会社などさまざまな業態の企業の取り組みを紹介。その結果、「葬儀は簡素で、全国一律になる傾向がある」と分析したが、現状については「若干行き過ぎの感があり、揺り戻しがあるのではないか」と指摘した。

赤堀氏は、宗教者が「終活」ブームの主役になることができていない現状について、「人生の終わりのための活動が商品になってしまっている」と危惧を述べた。

赤堀氏の「終活」ブームの解説に聞き入る出席者

「終活」は共同納骨のためのサークル、いわゆる「墓友」などに見られるように、つながりの再構築であると語り、「本来、宗教にはコミュニティー機能があったはず。そこを見直し、新宗教を含む宗教者はもっと積極的にアプローチすべきではないか」と宗教界の課題を提起した。

拡大宗法研に先立ち、午後1時からは、第29期第1回の幹事会を開催した。

新幹事の自己紹介の後、座長の選任を行い、前期に引き続き、平松千明幹事を座長に選任。各種報告の後、「終活」ブーム等について情報交換を行った。

新宗連 動き 協議会

飢餓のない世界に向け WFP担当者が講演

神奈川県協

講演を通し、世界の貧困と飢餓について学ぶ

神奈川県協議会（土田均議長）は6月26日午後2時から、横浜市の立正佼成会横浜普門館で「平成28年度平和学習会」を開催。「飢餓のない世界をめざして」をテーマに、国連WFP（世界食糧計画）協会の広報担当、櫻井裕介氏が講演した。

開会にあたり、土田均議長があいさつ。飢餓に置かれた国・地域がある一方、日本で生産される食糧の2割が廃棄処分となっている「食糧ロス」の報道に触れ、「どの宗教にも、他の人のために分け与え捧げるという教えがあるはず。私たちは、分かち合う精神を世のスタンダードにしていく使命があります」と述べた。

講演で櫻井氏は、世界にはすべての人に対して十分な食料があるものの、貧困により9人に一人、およそ8億人が飢餓に苦しんでいる現状を、国連WFPの統計や写真を元に説明した。

特に子どもの飢餓は深刻で、途上国の子どもの4人に一人は慢性的に栄養が足りず、体や知能の発達が遅れる原因となっており、成人後も病弱で生産性が損なわれているという。こうした貧困による飢餓に対して、国連WFPが展開している、緊急食糧支援と母子栄養支援、学校給食支援などを説明。

2014年の実績では82カ国8千万人に320万トンの食糧支援を行った。

慢性的な貧困は戦争や紛争、自然災害に起因し、世界経済の悪化につながり、悪循環にあると述べた。

「多くの命が危険にさらされている。不均衡を正していくべき」と訴えた。

そして飢餓をとりまく問題に関心を持ち、国連WFPへの協力をはじめ身近に取り組める支援活動への参加を求めた。

講演の後、櫻井氏に、神奈川県協議会から国連WFPへの支援金が贈呈された。また会場では、熊本地震に際しての緊急募金も行われ、募金は新宗連国際救援金に寄託された。

野外学習会を開催 災害復旧の歴史学ぶ

和歌山県協

「広村堤防」でガイドから説明を聞く参加者

和歌山県協議会（上田真佐江議長）は6月26日、「野外学習会」を開催し、「醤油発祥の地」の県内有田郡湯浅町と、同郡広川町の「稲村の火の館」を訪問した。

午前8時半、出発。車内で、上田真佐江議長が開会あいさつを述べた。午前9時頃から、湯浅町の「伝統的建造物群保存地区」をガイドの案内で散策。老舗醤油製造元の「角長」で、同地の歴史を聞いた。

午後は、「稲むらの火の館」を見学した。ここは、1854年（安政元年）に発生した「安政南海地震津波」に際し、「稲むら」（稲束を積み重ねたもの）に火を放ち、この火を目印に村人を誘導し、多くの命を救うとともに、村人の生活再建のために私財をはたいて村人を雇い、「広村堤防」を造成した醤油醸造業であった濱口梧陵の功績を顕彰する施設。地震津波の恐ろしさや、濱口の津波に対する心がまえ、その後の復旧への取り組みを3D映像で観賞した。館内にはその他防災に関する情報が数多く展示されており、参加者は興味深く見学した。

この後、現存する「広村堤防」に移動し、ガイドから当時の津波の様子や、濱口の行った復旧事業の説明を聞いた。

天理教本部を訪問 回廊拭き体験など

滋賀県協

滋賀県協議会（左藤滋光議長）は6月28日、奈良県天理市の「天理教本部」への教団訪問を行った。

午後11時過ぎに、天理教本部へ到着。総務部渉外広報課の橋本広満課長の歓迎のあいさつを受け、一度に最大10万食を準備できる日本最大級の給食センターで昼食をとり、陽気ホールへ移動した。ここでは、大型マルチスクリーンで天理教の紹介ビデオ「ようこそおかえり　ぢば」を観賞した。

その後、境内へ移動。神殿で「親神様」の鎮座するとされる「ぢば」の説明を聞き、全員で天理教の参拝方式で参拝した。教祖殿、祖霊殿と見学し、「回廊拭き」を体験した。参加者は専用のひざあてを着用し、両手にタオルを持って、約30㍍にわたって回廊を拭いた。

また、天理図書館を見学し、担当者から説明を聞いた（写真）。最後に、左藤滋光議長が「貴重な体験をさせていただいた。宗教協力が一層推進できるようになれば嬉しい」と謝辞を述べた。

祇園祭の山鉾曳き 地元の伝統 次代に

京都府協

京都府協議会の青年部（古田雅章部長）は7月17日、日本3大祭りの一つ「祇園祭」の前祭（さきまつり）の山鉾巡行の曳き手ボランティアに参加した。

同ボランティアには、「地元で開催される祇園祭の伝統を次代に継承しよう」を合言葉に5年前から加わっている。

早朝からの小雨も、祭が始まる頃にはあがり、「長刀鉾」を先頭に、くじの順番に従い、四条通り、河原町通りから御池通りを巡行した。

パーフェクト リバティー教団（PL）、天恩教の青年は12番目の「保昌山」（写真）を、立正佼成会の青年は20番目の「油天神山」を担当。麻の法被に笠姿の青年がゆっくりと力強く古都京都の町中を曳いた。

新宗連 青年会

争う心 どう克服するか

青関連が平和学習会

新日本宗教青年会関東連盟（青関連、鎌形至委員長）は7月18日午後1時から、東京・代々木の妙智會教団本部で「平和学習会2016」を開催した。

「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典（8・14式典）」の事前学習会を兼ね、実行委員・奉仕者の心づくりを主な目的とし、式典の意義や歴史、戦争と平和などについて学んだ。

参加者は本殿大講堂で、妙智會教団の礼拝に参列した。続いて、同教団の齋藤賢一郎理事長が受け入れあいさつ。元青関連委員長でもある齋藤理事長は、「学生の時、周りに信仰を持っていることを言えなかったが、青関連でたくさんの仲間と出会い励みになった」と語った。また核兵器廃絶の署名活動に取り組むにあたり、宮本ミツ妙智會教団会主から「心の平和が肝心」と「ご指導」を頂いたことなどを紹介し、青年らを激励した。

午後1時半、妙智会館に移動し、鎌形至青関連委員長が主催者あいさつ。この後、第50回「8・14式典」の記念DVD「祈りから行動へ」を視聴。同式典の意義や歴史について学んだ。

齊藤隆浩副委員長と藤井一嘉委員がファシリテーターとなり、ワークショップに移った（写真）。参加者は小グループに分かれ、南スーダンの少年兵に関する短い文章を読み、感想や意見をグループごとに分かちあった。続いて、日頃の生活の中で周囲にいらだったり、けんかをした経験を振り返ってもらい、どうすればそれを防げたかを話し合った。参加者からは「違いを認め、相手の意見をよく聞く」「相手は変えられないので、自分が変わる」「相手を許し、感謝する」「してもらうではなく、自分に何ができるかを考える」などの意見が出された。藤井委員は「争う心が戦争や紛争の原因の一つ。身近な問題として考えてもらいたい」と締めくくった。

最後に第51回「8・14式典」実行委員会の坪内教至委員長があいさつ。「相手を責めてしまう気持ちはどうしようもない時もあるが、自分の中に争う心があることを自覚することが大切ではないか」と述べた。

そうだ 選挙に行こう ④

今夏から18歳選挙権が適用

全国で投票促す活動展開

公開討論会や選挙区訪れ応援も

第24回参議院選挙は、7月10日投票が行われ、翌朝までに結果が判明した。マスコミ各社は、自由民主党と公明党など改憲勢力が参院議席の3分の2（162）を超え、憲法改正の発議に向けた議論が進展する可能性が大きくなったこと。また、民進党と共産党を中心とした野党連合が、初の統一候補擁立という戦略で、32の一人区で11人が当選したこと、その評価や賛否を問い報道した。

「18歳選挙権」が初めて適用された今回の参議院選挙に、青年たちはいかに行動し、結果を受け止めたのか。その一端を紹介する。

日本青年会議所

社会貢献を理念に掲げる青年経済人の全国組織である日本青年会議所（JC）の民度向上委員会は、「18歳選挙権」を「有権者意識の醸成と民度向上の観点から青年会議所運動を一層推し進める千載一遇のチャンス」ととらえた運動「ウルトラボートプロジェクト（ULTRA VOTE PROJECT）」を展開している。

全国のJC10地区47ブロック協議会の主催で、国政・地方選挙に対して選挙期間前に、立候補予定者による公開討論会や、大学生・高校生を対象としたセミナー、小中学生対象の教育プログラムなどを実施している。

今回の参院選にあたって、5月下旬から6月中旬にかけて立候補予定者公開討論会を行ったブロック協議会は35。立候補予定者の生の声を配信するWEBサイトもあり、選挙への参加を呼びかけた。

選挙期間中は、特に選挙活動は行わないものの、すでに次の地方選へ向けた動きが始まっている。東京地区ブロックは、7月31日投票の東京都知事選を前に、7月12日、都内で公開討論会を開催、立候補者5氏が参加した。

SEALDs（シールズ）

SEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）はブックレット「参院選2016ガイドブック」を作成し、ホームページ上で選挙への「参加」を呼びかけた。各地のメンバーは、市民団体の集会やデモに参加し、支持する候補者の選挙応援に携わった。

メンバーの一人、諏訪原健氏は7月19日夕、都内で開かれた野党議員有志で組織する立憲フォーラムの集会で、自身が体験した選挙活動を振り返り提言した。

はじめに「野党共闘を後押ししたのは、まぎれもなく市民だった。それを実現したことが一番大きな出来事だった」と述べ、野党が不利といわれた一人区で11人の野党統一候補が当選したことを評価した。

また、青森から鹿児島まで選挙区を見て、候補者の選挙対策事務所の若者、市民を受け入れる体制やホームページの不備など具体例を挙げて説明と改善のための提言も行った。「次なる戦いに向けて、議員の皆さんは私たちや市民とも話し合い、市民が主導していく選挙にしていただきたい」と抱負を述べた。

「18歳選挙権」の適用は今回の参議院選がスタート。国政・地方選挙にあたり、有権者となる若者の持つ一票が、日本の将来を左右する。（おわり）

暑中お見舞い申し上げます

（50音順）

宗教法人 阿吽阿教団本部教会
東京都港区高輪二丁目一番十三号
電話（三四七三）〇五二八番

円応教
教主 深田充啓
理事長 赤銅重夫
兵庫県丹波市山南町村森一―一
電話（〇七九五）七七―〇四三〇（代表）

大正三年創立
宗教法人 加納太霊教院
院長 加納理孝
〒074―1273
北海道深川市音江町音江七五七番一号
電話 〇一六四―二五―一七八六
FAX 〇一六四―二五―一七九〇

宗教法人 大神教
管長 西野新也
副長 西野延和
〒633―0001
奈良県桜井市三輪一一九八
電話 〇七四四―四二―六〇五七

宗教法人 神ながら教
教主 水野富久子
役員 一同
名古屋市東区徳川一丁目15番18号
電話（九三五）〇一三八

宗教法人 救世真教
会長 新井光興
顧問 新井三知夫
群馬県高崎市箕郷町中野二九二
電話 〇二七―三七―三六三九
FAX 〇二七―三七―七一三二

宗教法人 現證宗日蓮主義佛立講
講主 上村日正
〒513―0809
三重県鈴鹿市西条二丁目三―六
電話 〇五九（三八二）〇四四一
FAX 〇五九（三八二）〇四四一

宗教法人 思親会
会長 飯島法道
二五九―一一〇二 神奈川県伊勢原市子易一四五九
電話（〇四六三）九二―三一一一（代）

宗教法人 解脱会
法主 岡野聖法
理事長 岡野英夫
〒160―0007
東京都新宿区荒木町四番地
電話 〇三（三三五三）二一九一
FAX 〇三（三三五三）三〇五五

宗教法人 擯営界教団
法主 林玄光
大阪府交野市郡津三丁目四十七番十三号
電話（〇七二）八九一―一一五八

護国不動尊
代表役員 文元康介
枚方本院
大阪府枚方市香里ヶ丘一〇丁目一番一五
TEL（〇七二）八五三―〇五五九
吹田本動院
大阪府吹田市古江台三丁目一五―一―一
TEL（〇六）六八三三―〇五五九

宗教法人 修養団捧誠会
総裁 出居徳久
会長 早山徹
東京都豊島区池袋本町三丁目一一―一
電話 〇三（三九七一）一四九三

喜びと幸せを説かせて頂く人間に

「第98回立教祭」

立教100年に向け 原点を確認　円応教

「献上の儀」で荘厳された真殿で、深田恵主を主導師に「おつとめ」

円応教（深田充啓教主）は7月17、18の両日、兵庫県丹波市の本部聖地で「第98回立教祭」を執り行った。両日とも深田充啓教主が本殿に入場した後、9人の女性が献花・献饌・献茶の「献上の儀」で真殿を荘厳し、深田惠子恵主の主導師による「おつとめ」を行った。来賓あいさつの後、赤銅重夫理事長があいさつに立ち、立教100年に向けての一層の協力を呼びかけた。

深田教主が「御親教」に立ち、あと2年で立教100年を迎えることから、深田千代子教祖が1919（大正8）年7月16日に天啓を受けた当時のことがかかれている教典25ページの自叙文を読み上げ、立教の原点を確認。教祖が「神の使いしめに生まれ、世の中の道具になる」と天啓を受け、社会の急速な変化によって、人間の姿のまま、神の使いとして当初の予定より7年早く宗教活動を開始したことを語った。その上で「世の中の道具になる」という精神をもとに「一人でも多くの人に喜びと幸せを説かせていただく人間になっていただきたい」と呼びかけた。

この後、天啓を受け、霊力を授かったのが月のきれいな夜だったことにちなみ、深田教主が一株一株丹精込めて育てた「月下美人」が抽選の上、信者に贈呈された。

午後6時35分から、円応祭りが霊園前広場で、午後8時半からは、聖地前の田圃で感謝花火大会が行われた。フィナーレでは、熊本地震被災地の早期復興を願って、兵庫県下最大の8号玉が打ち上げられると、大きな歓声とともに拍手が起こった。

命あるものすべての弥栄願う

快晴のもと、白衣に身を包み「禊祭」　大和教団

保積教主（左）から、金扇により神威を拝受

大和教団（保積秀胤教主）は6月26日午前10時半から、仙台市の大國神社で「禊祭」を斎行した。快晴のもと白衣に身を包んだ教信奉者が、法螺貝の音とともに大鳥居から本殿まで参進。斎主の保積秀胤教主が本殿に入殿し、修祓、「天神地祇百八百萬神」招神、斎主による「本祭祝詞」奉唱など、厳かに祭儀が進められた。この後、本殿大前庭で「天地一切清浄大神業」を執り行い、副斎主の保積志胤統理により「御神火壇点火之儀」が修められ、各種祓い、鳥船神事などが行われた。「神人和楽おはやし行事」では、参拝者が大前庭の中央に設けられた御神柱と大火祭壇の周囲を「惟神神言」を一心に奉唱しながら3度回り、神威を拝受した。

再び本殿に戻り、「神徳称賛詞」奉誦、玉串拝礼を行い、保積教主が「御言葉」を述べた。はじめに天地はじめ現世、霊界を清め調和し、命あるものすべての弥栄を願うとの「大和の教え」を説いた。

また祭儀で使用する木札守を作成して11年目となることや、現在、奥都城に建立中の随神霊神奉之碑などを説明し、「信者の皆さんの温かい真心のお陰で、私は信仰を継承させていただいています」と述べた。さらに祝詞で東日本大震災にふれた時、涙がこみあげてきたことを、震災犠牲者や難儀をしている福島原発地区の人々から励ましをいただいたものと受け止め、「温かい涙を、皆さんの命と共にいただきました」と感慨を披歴した。

6月24日の新日本宗教団体連合会の理事会で、理事長として再任されたことを報告。日本宗教連盟理事としても北朝鮮拉致被害者を救う活動に努める決意を述べた。

再び大前庭に移動し、「散餅散銭之儀」を執り行った。保積統理の発声で、参列者一同で威勢よく「弥栄」を三唱した。

欲望をなくし紛争なき世界へ

本部本殿大講堂と千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「うら盆供養」　妙智會教団

妙智會教団（宮本惠司法嗣）は7月14日、東京・代々木の本部本殿大講堂と九段の国立・千鳥ケ淵戦没者墓苑で、「うら盆供養」を執り行った。

「本部うら盆供養」は午前10時、玄題三唱で開式。青年部により献灯・献華・献供の儀が厳かに行われた。導師の宮本惠司法嗣が入殿し、「ご祈願」。この中で初盆を迎えた熊本地震の犠牲者の冥福と被災地の早期復興を祈願した。続いて読経供養が行われた。

体験発表に移り、会員代表が、母親の新盆の「区切り」をさせていただいたことに謝意を述べ、「母が伝えてくれた素晴らしい妙智の教えを支部の若い会員に伝えていきたい」と語った。

続いて宮本法嗣が「ご指導」に立ち、「供養会前の自宅での朝のお経が足りていません。そのなまけ癖の根性を改めるよう、懺悔して下さい」と指導した。また良いことほど面倒くさく感じてしまうと指摘し、「原因は前世から持ってきたもので、その根本は三毒です」「今日から三毒を消す努力をして下さい」と説いた。

午後1時からは国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「戦没者うら盆供養」を執り行った。教団旗・各部旗が入場し、献灯・献華・献供の儀が行われた。導師の宮本法嗣が入場し、「ご祈願」。

千鳥ケ淵戦没者墓苑で献灯・献華・献供を行い、六角堂を荘厳する青年たち

そして参列者一同で読経、唱歌「ふるさと」「夕やけこやけ」を斉唱した。

宮本法嗣があいさつ。バングラデシュで起こったテロに触れ、「自分たちだけが正しいという考えが争いの元になる」と述べ、「異なる信仰に尊敬の念を持つことが大切」と語った。また「欲望が紛争のもとである」と指摘し、「私たちは妙智の教えにご縁を頂いたので、この教えを信じて、欲望をなくす努力をし、そのような人を増やし、紛争のない世界実現のために頑張りましょう」と述べた。

慈悲の心による社会活動を讃える

「御入滅85回忌教祖祭」　法公会

三徳を実践、魂を磨くことこそ

ハンセン病患者の支援などに尽力した教祖の徳を説く榊原会長

法公会（榊原光徳会長）は6月26日午前10時から、愛知県知立市の総本山で杉山辰子教祖の「御入滅85回忌教祖祭」を厳修した。

榊原光徳会長を導師に境内の聖仏舎利宝塔、杉山教祖の座像を奉安する教祖殿、そして本殿で読経供養を勤めた。本殿では読経供養後、婦人部による御詠歌奉納に続いて、参列者一同で「会員綱領」を唱和した。

少憩の後、榊原会長と川合法聖一色教会長が法話。榊原会長は、杉山教祖の生前の活躍の中から、大正から昭和にかけて関東大震災に際しての炊き出しや食糧提供、また各地のハンセン病専門病院の慰問と援助、名古屋市と福岡市に専門病舎を建設するなど、教祖が社会活動に取り組んだことを「ボランティア活動の草分け」と評した。

特にハンセン病患者の支援では、当時、迫害を受けていた患者と教祖は衣食住を共にし、献身的に心のケアに尽くしたことを挙げ、「妙法の力を信じ、何も恐れること無く、世の為、人の為に『慈悲の心』を強くお持ちになり、多くの患者さんを救われた」とその徳を讃えた。

そして「教祖様が説かれた三徳（慈悲・誠・堪忍）を実践することで、己の魂を磨いていくことが大切です」と説いた。

この後、恒例の抽選会が催され、家電製品や日用品などの景品が榊原会長から当選者に手渡され、盛況となった。

真行は理屈でなく行動 魂の浄化を

真心からの祈りの重要性を確認した「夏季大祭」　擬営界教団

「朝夕礼拝諄詞」を奏上した後、参列者に向かい「日常勤行要文」を奉読する林法主

擬営界教団（林玄光法主）は7月8日、大阪府交野市の本部紫雲山光明閣で「夏季大祭」を斎行した。

午前9時半、開式の鐘が打ち鳴らされ、斎主の林玄光法主に続いて、4人の斎員が入座。斎員が「御降神諄詞」を奏上し、「祓戸の御式」では供物や神前の東西や参列者に対し、林玄光法主が修祓を行った。

各斎員による「珍納比都宜之大神諄詞」「産土之大神諄詞」「幽冥界之大神諄詞」「龍雲紫光真霊諄詞」の奏上に続き、林斎主が「夏季大祭諄詞」を奏上した。

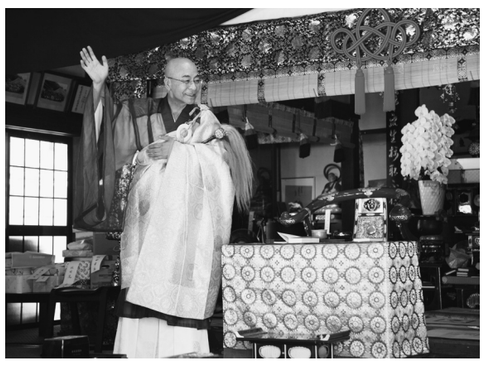
林斎主の先導で参列者が「朝夕礼拝諄詞」を奏上。続いて、林斎主が参列者に向かって「日常勤行要文」を奉読した。

林法主による「感謝箱」祈念の後、信者代表の辰巳栄一氏が体験発表を行った。辰巳氏は、胸に痛みを感じ病院に向かい、不思議なことに到着すると痛みが消えたが、医師の強い勧めにより検査入院をすることになった。しかし、結果は数値も正常であり、「大真霊（おおかみさま）に日々の祈りを捧げているおかげで健康に毎日を過ごせています」と語った。

続いて、林法主が教話に立ち、「擬営界教団では祈ることを最も大事にしてきました。真実の祈りは現世利益を超え、欲念に縛られず無心に祈ることです」と真心からの祈りの重要性を語った。また「真行は理屈ではなく行動です。家庭で朝晩、諄詞をあげ、お祈りすること以上に、パワースポットである本山でお祈りすることでさらに魂が浄化されます」と述べ、本山への参拝を呼びかけた。

戒名を読み上げて供養、焼香

多くの檀信徒が参拝し「盆大施餓鬼会」　西居院


多くの方に参拝いただきたいと語る廣中住職

菩提山西居院（廣中邦充住職）は7月1日午前9時から、愛知県岡崎市の西居院で「盆大施餓鬼会」を勤修した。当日は晴天に恵まれ、多くの檀信徒が参拝した。

午前は盆供養が営まれた後、10時半から浄土宗松明院（同市細川町）の原田智道住職が説教。歴史ドラマに登場する戦国武将の信仰などに触れ、「まずは空念仏でも良いので、念仏を称えましょう」と説いた。

説教後、参拝者全員に昼食がふるまわれ、正午からは初盆供養を中心に、法要を勤修。廣中邦充住職は、本堂内にしつらえた卒塔婆を一本ずつ手に取り、施主名と戒名を読み上げ供養し、施主は焼香を行った。

法要を終え、廣中住職があいさつ。檀信徒の寄付により電光掲示板が新たに設置されたこと、観音像のライトアップを行っていることなどを報告し、「さらに多くの方に参拝いただけるようにしたい」と語った。

松緑神道大和山
教主 田澤清喜
代表総務 鈴木武幸
青森県東津軽郡平内町外童子字滝ノ沢二二・一三

人にしんせつ 地球に感謝
宗教法人 真生会
会長 田中庸仁
理事長 田中啓三郎
総本山真生寺
住所 岐阜市彦坂一七八
電話 （〇五八）二三五―七三〇四

善隣教
聖主 力久隆積
教主 力久道臣
福岡県筑紫野市原田
電話（〇九二）九二六―一〇一〇（代）

大慧會教団
会長 石倉恒男
〒599-8126
大阪府堺市東区大美野142―14
TEL 072(236)1601
FAX 072(237)3107
URL http://www.daiei-kai.jp

大日如来様御奉戴の
宗教法人 大法輪台意 光妙教会
大日如来様御聖業奉讃会

玉光神社
宗教心理学研究所
本山生命物理学研究所
国際宗教・超心理学会
本山人間科学大学院（MIHS）
〒181―0001 東京都三鷹市井の頭四ノ十一ノ一
電話 〇四二二―四八―四九五

暑中お見舞い申し上げます
（50音順）

あたらしい道 神光苑
代表役員 板﨑雅光
あたらしい道本部
大阪府羽曳野市はびきの三丁目三番十八号
〒583―0872 電話（〇七二九五六―七九七一（代））

宗教真光
SUKYO MAHIKARI
〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 2-596-1
TEL 0577(34)7008

宗教法人 祖神道教団
祖神 吉岡優
総本部 金沢市水溜町二一二
TEL（21）六六〇七番（代表）
天宮神宮 西宮市山口町船坂一三一九
TEL 〇七八（九〇三）二〇〇二

宗教法人 大日然教

一切を生かす 大和教団
教主 保積秀胤
統理 保積志胤
総監 平松千明

天恩教
教主 鉢呂神龍
理事長 鉢呂金太郎
〒619―1301 京都府相楽郡笠置町大字有市小字西狭間一番地
電話（〇七四三）九五―二七八六

憲法公布から70年

正義・平和を問い直す

第34回金光教東京平和集会

金光教東京センター（大木光雄所長）は7月17日午前11時から、東京・秋葉原の金光教館で「第34回金光教東京平和集会」を、「どこまでも真の平和を求めて―日本国憲法公布70年　真の平和を考えよう。」をテーマに開催した。

オープニングで参加者全員が「平和の祈り」を奉唱した後、「大人のひろば」と「子どものひろば」に分かれ、テーマに沿った企画が催された。

憲法公布70年にあたり、「大人のひろば」では、講義「改憲・護憲・選憲」が行われ、特に憲法第9条を取り上げ、参加者に問いかけた。現行憲法と自由民主党「日本国憲法改正草案」の戦争の放棄、安全保障、国防軍に関する条文（第9条）を対照し、「改憲」と「護憲」、そして憲法の良いところと悪いところを選び直す「選憲」について、東京センタースタッフが3者の立場になりきり説明した。続いて劇団夏季による劇「それぞれの平和」では、元ヒーローたちが、正義や平和とは何かを問い直すストーリーが展開された。

この後、辻井篤生金光教東京学生寮寮監が「まとめ」を行い、改憲派も護憲派もどちらも主張する「平和のため」という理由に潜む危険性を解説。金光教の信心から「自分の意見は正しく、相手の意見は正しくないとのあり方が争いの始まり」「『国』や『民族』といったカテゴリーだけでとらえるのではなく、個人として尊重することが大事」など、真の平和のための要点を説いた。

午後1時過ぎから、九段の国立・千鳥ケ淵戦没者墓苑まで平和行進。「世界がいつまでも平和でありますように」と記した横断幕を先頭に、日本語のほか英語や韓国語、中国語を交えた平和アピールを道行く人々に訴えた。

辻井氏が「まとめ」を行った

千鳥ケ淵戦没者墓苑に到着後、同3時から大木光雄所長を祭主に「戦争死者慰霊・平和祈願祭」を執り行った。大木所長による祭詞奏上、玉串奉奠、信奉者による献水・献華など祭儀が厳かに行われ、参列者一同で「戦争死者慰霊・平和祈願の詞」を奉唱した。

祭儀の後、大木所長があいさつに立ち、自らの生きづらさを暴力で主張する人が増えてきたことにふれ、公布から70年を迎えた憲法の意味を各自が問い直すことを説いた。そして「いのちの尊さ、真の平和を真摯に考えていただきたい」と呼びかけた。

靖国訴訟の現状と展望

第29回全国政教分離訴訟全国集会in東京

各地で政教分離裁判に関わる弁護士や原告らが参加し、「第29回全国政教分離訴訟全国集会in東京」が7月15、16日の二日間、都内の会議施設で開催された。

各弁護団によるシンポジウムを開催（7月15日）

初日は午後1時半から、記念講演を吉田裕一橋大学教授（日本近代史）が「靖国神社の現在」のテーマで行い、靖国神社の位置付けや首相の靖国神社参拝が歴史認識問題にまで発展した経緯、国民の靖国神社に対する意識及び同神社の財政など、現状分析を行った。

首相の公式参拝推進運動については「最近は『公式参拝』を明示的に求めず、終戦記念日の参拝要求は後退しつつある」とし、一方、「私的参拝」であると位置付けしても、政教分離・信教の自由、歴史認識問題と連動するものであることも指摘した。

記念講演後は、翌日午前にかけて、安倍首相の靖国神社参拝に関わる大阪靖国訴訟、東京靖国訴訟、そして韓国の元日本軍人軍属の生存者・遺族らが靖国合祀の取り消しを求めているノー！ハプサ（合祀）訴訟など各弁護団、原告によるシンポジウムを催した。

各地での活動報告と展望などで意見交換を行い、その中では、政教分離を問うた北海道の砂川裁判の違憲判決から、北海道内の護国神社例祭などで知事や市長の参列が中止されていることも報告された。

世界宗教者平和会議（WCRP／RfP）日本委員会（庭野日鑛会長、杉谷義純理事長）は、アジア宗教者平和会議（ACRP）40周年を記念する「ACRP創設40周年記念シンポジウム」を10月26日午後1時半から、京都市国際交流会館で開催する。

ACRPは、WCRP／RfPの第2回世界大会（1974年、ルーベン大会）において、アジア各国の参加者による、アジアにおける諸問題解決のための平和会議を開催したいとの希望から始まった。第1回テーマは「いかに宗教の名を使った暴力的過激主義に応答するか？」。ACRPの40年の歩みを振り返るとともに、日本総合研究所理事長の寺島実郎氏の基調発題やパネルトーク、フロアディスカッションなどが予定されている。

ACRP創設40周年シンポ

10月に京都で開催

WCRP／RfP日本委

ACRPが、76年にシンガポールで開催され、これまでに8回の大会が開催されている。

今回のシンポジウムのテーマは「いかに宗教の名を使った暴力的過激主義に応答するか？」。ACRPの40年の歩みを振り返るとともに、日本総合研究所理事長の寺島実郎氏の基調発題やパネルトーク、フロアディスカッションなどが予定されている。

定員は200人。問い合わせは、WCRP／RfP日本委員会まで。Emailinfo@wcrp.or.jp

解説　信教の自由とは何か　3

他人の自由を奪うことが問題

善意で行われても許されず

Q5　「信教の自由」は、何をしてもいいということなのですか？

A5　どのような教えを信じ、説くのも自由ですが、押し付けることは問題です。

Q6　宗教団体が教えを伝えることは、「信教の自由」の侵害ですか？

A6　教えを伝えることは、「信教の自由」の侵害になりません。（パンフレット『信教の自由とは何か。』より抜粋）

「信教の自由」は、何かを信じる自由であり、信じていることを表現する自由であるが、他の人の自由を奪ってはいけないという制限がある。

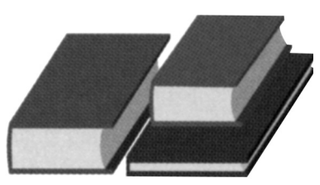
信仰によって救われた人は、苦しんでいる人を助けてあげたいと思う。そこで、苦しんでいる人に、自分が救われた「教え」を伝える。ここには何の問題もない。ところが、その苦しんでいる人が、その「教え」が腑に落ちないと感じたとしても、「教え」を信じろと強要すれば、問題である。

苦しんでいる人を救いたいというのは、善意から出た素晴らしい行為である。しかし、相手が嫌がっているにも関わらず、押し付けることは、善意からであれ、よくないことである。

また、宗教の中には、他の「教え」を認めない宗教もある。そのようなあり方は、「信教の自由」で守られている。自分の宗教以外、すべて間違っている、と主張することは問題とはならないし、その「教え」を他人に伝えること、「布教」も問題ではない。問題となるのは、他人の自由を奪う場合である。

一つの「教え」以外のあり方は認めないとするのは自由であるが、実際に他人に対して、「教え」を押し付け、他の「教え」を信仰したり実践したりできないように、身体を拘束する、精神的に圧力をかけるなど、他人の自由を奪うことが問題なのである。

どのような「教え」を信じ、実践したとしても、あるいは「布教」をしても全く問題ではない。「信教の自由」によって、それらは守られている。しかし、相手の自由を奪うことは、それが善意からなされることであっても、許されないということである。



新刊紹介

人が助かることさえできれば
―「戦争」と「テロ」の時代を見据えて
小澤　浩　著

本書の題名「人が助かることさえできれば」は、金光教の教祖・金光大神の言葉である。

著者は、「この短い一句の中に、教祖の教えの根本のところが全て語りつくされていると思うのです」と述べる。そして、「この言葉のただならぬ意味を実感していただくために、試みに、そこにほかの色んな言葉を入れてみてください。人が助かることさえできれば、『金光教の看板などはどうでもよい』『相手が、神を信じていようがいまいが、それもとりあえずはどうでもよい』、その他、その他……。つまり、この言葉はあらゆる条件に耐える究極の言葉だったのです」と言い切る。

本書は、金光教も含めほとんどの教団が先の大戦の前、あるいは戦中において、国家の重圧により、自由な宗教活動ができず、戦争協力を余儀なくされる中、金光教にあって教祖の願いに生きた人々の姿を描き出したものである。

筆者によれば、本書のねらいは、「いまや人類を覆い尽くしている戦争やテロの悲劇を見るにつけ」「これまで私が拙い筆で綴ってきた金光教の教祖の教えや教団の歴史には、その（戦争やテロを防ぐ）ための格好の材料がふんだんにあると考えたから」（「読者の皆さんへ」より）にほかならない。（白馬社　A5判　270頁　定価1944円）

近現代日本の宗教変動
―実証的宗教社会学の視座から
寺田喜朗・塚田穂高　川又俊則・小島伸之　編著

本書は、若手の宗教社会学研究者による論文集。ここでいう「宗教社会学」とは、宗教にまつわる諸現象を、「社会学」という学問的立場から分析するもの。特に「実証的」であることが本書の特徴で、文献資料やフィールドワークを踏まえて、明治以降日本の宗教現象の変化を多様な側面から明らかにしている。

3部構成をとり、第1部では新宗教を取り上げ、教団の成立・展開・変容を分析する。事例は、大正から昭和戦前期の在家主義仏教系、明治期の教派神道系、戦後のカリスマ教祖系と時代、タイプともバラエティに富んでいる。第Ⅱ部では地域社会に焦点をあて、葬送習俗の変容、神社・氏子組織と政教分離問題、過疎地域と教団の生き残り戦略がテーマ。民俗宗教、神社、伝統仏教、キリスト教が取り上げられている。第Ⅲ部は国家レベルの宗教制度（国体論）、「宗教弾圧」（取り締り）が取り上げられている。

古典的なものも含め、研究史上の踏まえるべき成果に再び光をあて、整理し、新たな知見を加えていこうとする姿勢を共通して指摘できる。研究者向けの内容だが、いずれも具体的な事例を丁寧に記述しているため、それほど難しくない。歴史的にも地域的にも多様な宗教現象に、新進気鋭の若手研究者がスクラムを組んで真摯に取り組んだ成果である。（ハーベスト社　A5判　416頁　定価4104円）

暑中お見舞い申し上げます

宗教法人　天顕山　晃妙寺　住職　松本晃芳　役員一同　大阪府枚方市招提平野町四ノ一四　電話　〇七二―八五七―七四五六番

七曜会　理事長　眞塩陽一郎　電話〇三(三四六六)六〇二六

妙智會教団　東京都渋谷区代々木三ノ三ノ三　電話(三三七〇)五四〇三(代表)

八津御嶽神社　宮司　代表役員　山本行徳　東京都中野区本町二の七の六番地　電話　〇三(三三七二)四二五一

kosei　生かされ、生きるチカラ。　立正佼成会　会長　庭野日鑛　理事長　川端健之　〒166-8537　東京都杉並区和田二―十一―一　電話〇三(五三四一)一六一五　http://www.kosei-kai.or.jp

宗教法人　霊波之光教会　総教司令本部

天光教總本部　大阪市天王寺区東上町八番十四号　電話代表大阪〇六(六七七一)三八八番

パーフェクト　リバティー教団　教主　御木貴日止　大本庁　大阪府富田林市新堂二―七二―一　電話〇七二(二)四―一一一一(代表)

妙道会教団　会長　佐原慶治　本部〒543-0034　大阪市天王寺区松ケ鼻町四―三四　電話　〇六(六七七一)二〇五〇

宗教法人　大和教　管長・教祖　保積敬子　宮城県塩竈市南町六―五　電話(〇二二)三六二―一三九二

宗教法人　良辨教本部教会　〒五八一―〇八一三　大阪府八尾市泉町一丁目一三七の三　電話(〇七二九)九六―四九一六番

月読之命奉斎　榊の葉でみる神占　宗教法人　和光道教団本部　大阪市天王寺区上本町二丁目一の二十三　電話　大阪(六七六一)一四八〇番

宗教法人　天心教本庁　教主　天元　羽曳野市古市一―六―八　電話　〇七二九―五六―〇八五五番

宗教法人　日月神一条　管長　嘉納良樹　吹田市内本町一丁目九の四　電話(六三八一)四一六九番

宗教法人　三輪神道宏充教本部　管長　吉川允恵　大阪市生野区新今里三丁目二番二十号　電話　(六七五一)二七〇九番

公益財団法人　世界宗教者平和会議日本委員会　会長　庭野日鑛　理事長　杉谷義純　〒166-0012　東京都杉並区和田二丁目六番一号普門館内　電話(〇三)三三八四―二三三七

公益財団法人　庭野平和財団　理事長　庭野浩士　160-0022　東京都新宿区新宿一丁目一六番九号　シャンヴィラカテリーナ5階　電話　〇三(三二二六)四三七一番　FAX　〇三(三二二六)一八三五番

(50音順)